

JIM-NET 年次報告書

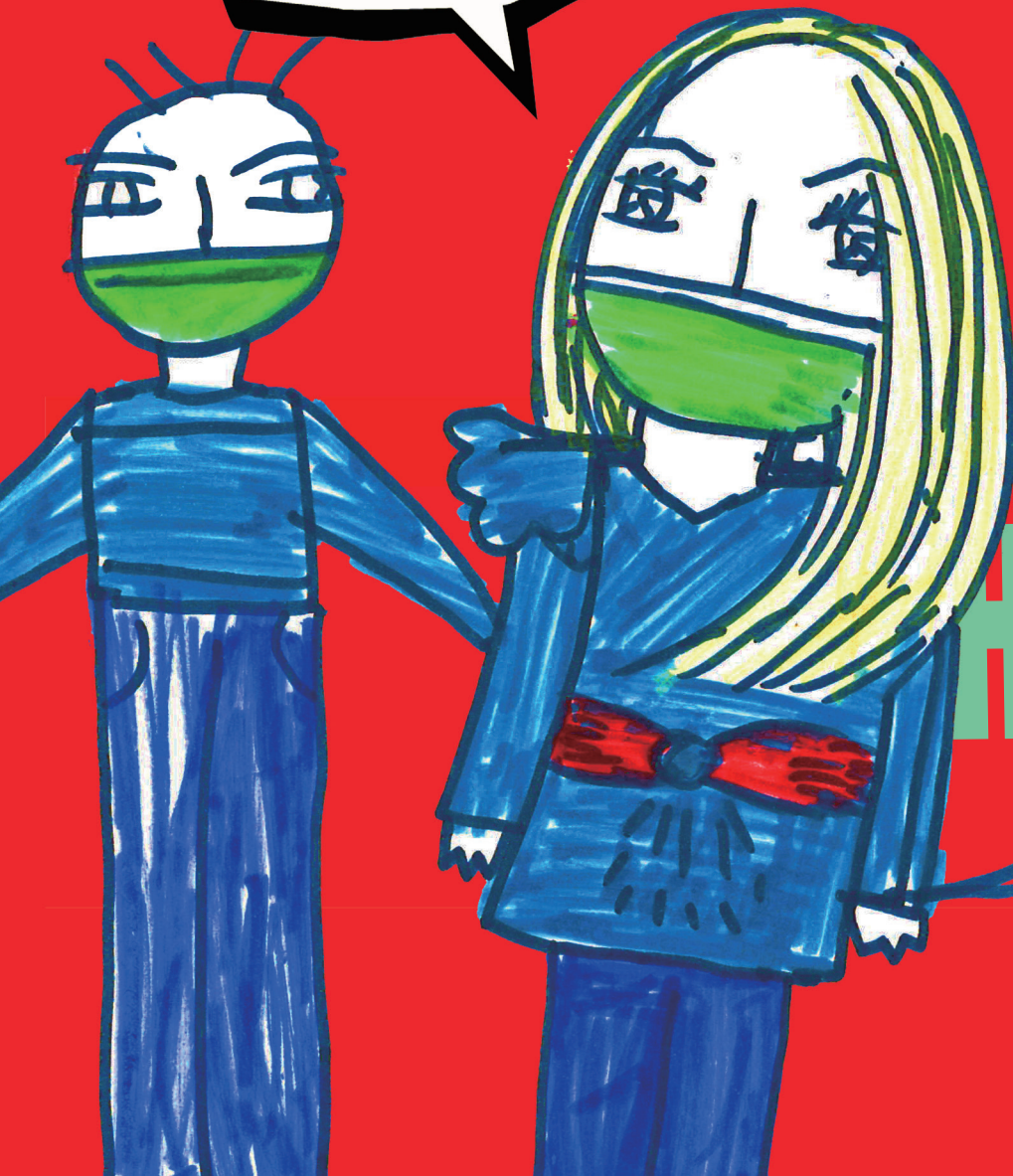
日本イラク医療支援ネットワーク

Annual Report

2016

救いたい命がある。

We
have a
JIM-NET!
house •



سعيد

HAPPY



イラク・アルビル市内のナナカリ病院を視察する。
(佐藤真紀：写真左から2人目) ©Natsuki YASUDA



チョコパッケージの絵を描いてくれたシリア人のタハニさん。イギリスが難民として受け入れた。がんのためロンドンでパリアティブケアを受けている。

✧ヨーロッパから考えた 2016年

特定非営利活動法人
日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)
事務局長 佐藤真紀

JIM-NET は、「イラクのがんの子どもたち」を支援する地道な団体ですが、常に時代の最前線で活動を行ってきました。それは2003年のイラク戦争から、イラク自体が国際情勢の最前線にいますことすし、日本もその対応を求められ、自衛隊や、安保法制、共謀罪といった日本国内の問題にもつながっています。

2016年は、ヨーロッパに注目が集まりました。その前年からイラクやシリアから大量に難民が海を超えてヨーロッパに移動しました。ドイツは「人道主義」を貫き難民の受け入れを表明し、他のEU諸国もそれに倣いました。しかし、言うほどうまくはいかず、そして、フランスやドイツでは「イスラム国」(IS)を名乗る人々によるテロが発生。イギリスはEUから離脱、アメリカではトランプ政権が誕生し、日本はといえば、テロに対して力で戦う姿勢を鮮明に打ち出し準備を始めています。

当のイラクではモスル解放作戦がはじまり、ISとの戦いは最終的な局面を迎え、さらに多くの犠牲者と避難民を出しています。次は平和が来るのか？あるいは、もっとえげつない戦争が来るのか。

そんな時代にも、小さく咲く「いのちの花」があります。チョコ募金では、ヨーロッパまで行って、イラクとシリア難民のがんの子ども等に本物の花を描いてもらいました。なぜそこまで手間をかけるかというと、命の重さ、戦争に反対する強い思いが詰まったチョコを召し上がってほしいからです。

2017年1月、念願の「JIM-NETハウス」ができました。患者家族が泊ったり、お金がなくて薬が買えない患者のお父さん、お母さんが来て涙を流していきます。モスルからも多くの患者と家族がやってきます。本当に大変で、こっちまで落ち込んでしまいそうな時もあります。しかし、そんな「ハウス」を、子どもたちの絵や作品で埋め尽くしていきたい。一つの芸術作品のようになればいいと思います。

引き続き JIM-NET をよろしくお願いします。

✧組織体制

【役員】

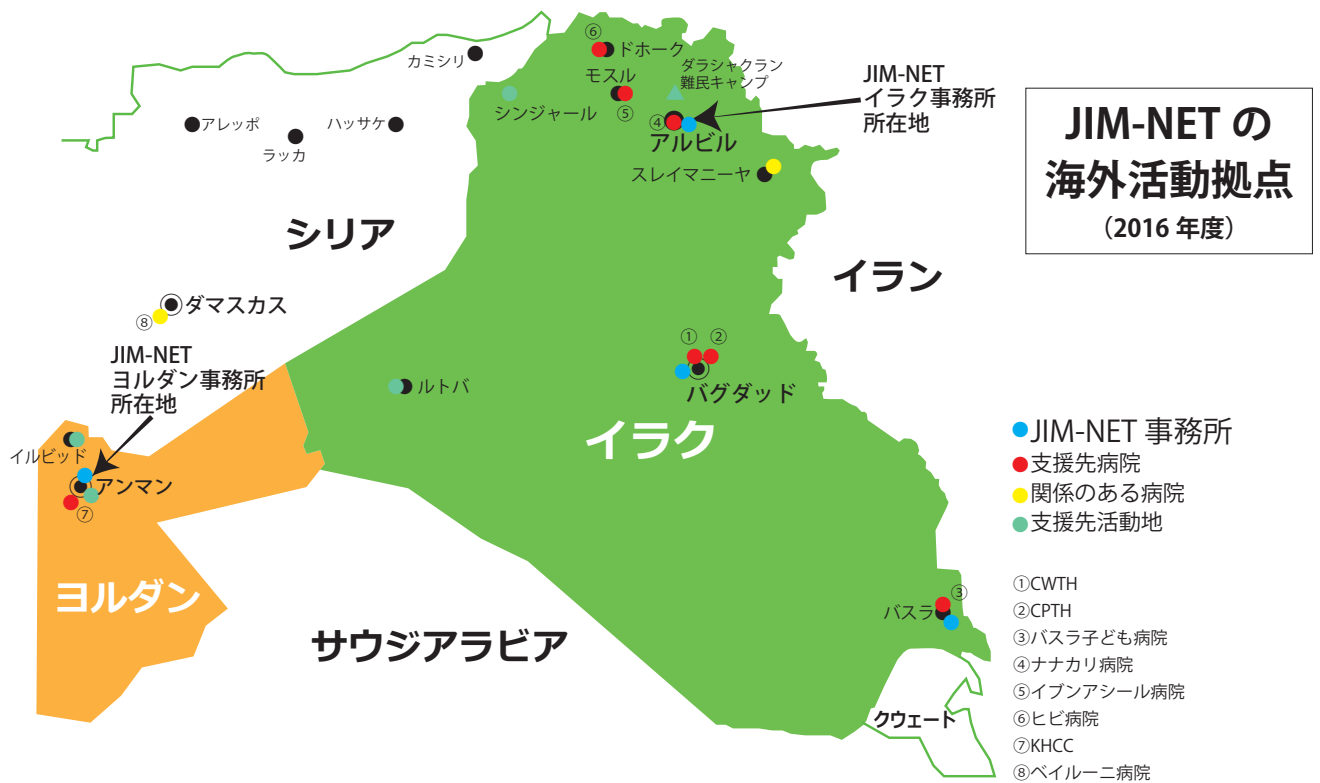
代表	鎌田實
副代表兼事務局長	佐藤真紀
理事	池住義憲
理事	井下俊
理事	鎌仲ひとみ
理事	谷山博史
理事	平野裕二
監事	村山文彦

【スタッフ】

東京事務所スタッフ：7名
アルビル事務所スタッフ：1名 アンマン事務所スタッフ：1名
現地スタッフ：アルビル6名 バグダッド2名 バスラ1名 ヨルダン1名

【サポーター】

ラナサポーター*：670名 一般サポーター**：1,577名
*ラナサポーター：年会費1万円。うち3千円が会報誌の送付やイベント参加費免除等のサービスと、JIM-NETの運営に充てられるほか、7千円を子どもたちの医療支援費に充当します。
**一般サポーター：年会費3千円。会報誌の送付やイベント参加費免除等のサービスと、JIM-NETの運営に充当されます。



✧ JIM-NET のあゆみ

1990 年代半ば、イラクの子どもたちの間で、がん・白血病の発症率が急激に増加し始めました。1991 年の湾岸戦争時に米軍が使用した劣化ウラン弾の放射能の影響だと思われます。しかし、湾岸戦争後の経済制裁による抗がん剤や医療機器の輸入制限のため、適切な治療が受けられずに、多くの子どもたちが、助かるはずの命を失っていきました。

2003 年のイラク戦争で、米軍は再び劣化ウラン弾を使用しました。イラクの病院は破壊され、疲弊し、保健行政も機能不全に陥り、増え続ける小児がん・白血病の子どもたちにとって危機的状況でした。2004 年 6 月、来日したバスラ産科小児科病院のジャンン医師と日本の支援者たちの間で、子どもたちの窮状を救うための話し合いがもたれました。そして、より効率的で継続的な支援体制の確立をめざし、NGO、市民グループ、日本とイラクの医師たちが「日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)」を立ち上げました。以降、任意団体として 7 年あまり活動した後、2012 年 2 月 1 日、特定非営利活動法人 (NPO 法人) となりました。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の直後には、宮城県石巻市を中心に医療支援や仮設風呂の提供を行なうとともに、地震と津波で福島第一原子力発電所の事故が起きた福島県にて、放射能の被害を最小限に留めるべく除染や疎開の支援を継続して行っています。また、2012 年 4 月からは、内戦が激化したシリアから大量の難民が発生したことを受け、イラクとヨルダンにて緊急支援を開始しました。

2016 年度にはイラク・アルビルに「小児がん包括支援施設 (通称：JIM-NET ハウス)」を開設しました。ヨルダンにおけるシリア難民の戦争負傷者・障害者支援を継続し、イラク国内避難民を対象に緊急支援を行いました。

JIM-NET は、イラクの小児がんの子どもたちが自国でちゃんと治療を受けられるようになり、先進国並みの生存率となるように支援を続けます。福島での活動も継続し、国内外を問わず放射能汚染から人々を保護するために必要な諸活動を行います。また、シリア難民支援とイラク国内避難民支援にも継続して取り組んでいきます。

JIM-NET の活動「3つの柱」

イラク小児
がん支援

緊急支援
(イラク・
ヨルダン)

福島支援

イラク小児がん支援

❖2016年度概況～地域に根差したがん支援を！

JIM-NET では、バグダッドの2病院 CWITH(子ども福祉教育病院) CPTH(子ども中央病院)、バスラのバスラ子ども病院、アルビルのナナカリ病院、ドホークのヒジ病院へ医薬品支援を行っています。

「イスラム国」(IS) との戦いでモスルから避難してくる人たちが、クルド自治区のアルビルのナナカリ病院に押し寄せ、医薬品の不足が深刻になっています。

2017年1月に、モスルのイブンアシール病院が解放されると、JIM-NET はいち早く、復興のために医薬品を届けました。

一方で、JIM-NET が力を入れているのが心理社会的支援です。小児がんの子どもたちの院内学級や、絵画教室などの文化活動も盛んに行っています。

念願の小児がん包括支援施設として「JIM-NET ハウス」を立ち上げ、壁には、子どもたちの絵が飾られています。モスルからの患者家族の宿泊施設としても、多くの利用者が訪れています。

シリア国内のがん支援団体とも交流し、紛争下でのがん支援に関して意見交換をしました。

TOPICS 念願の JIM-NET ハウスがオープン！

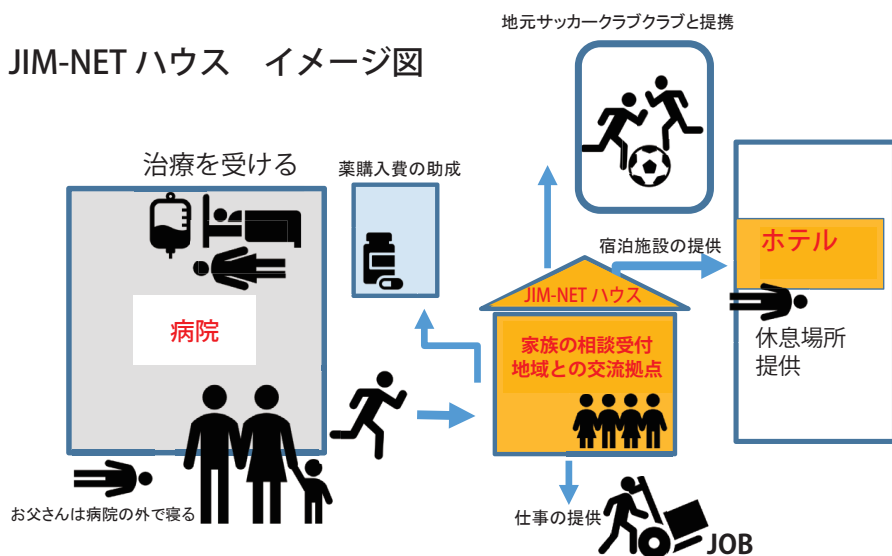
イラクの小児がんの病院では、狭い病室に患者が何人も押し込められ、母親がつきっきりで看護し、添い寝しているという現実があります。父親は、遠方から到着してもホテルに泊まるお金もないので、病院の受付の床や、夏は庭で寝ているのです。家族の経済負担だけでなく、心理的な負担も半端ではないことは見て明らかでした。

そこで、2017年1月から、小児がん包括支援施設（通称：JIM-NET ハウス）を開所しました。病院の近くに家族が相談に来る建物を借り、ホテルを1年契約で2部屋確保し、いつでも相談できて必要な時に泊まれるような体制を作りました。宿泊施設は主に IDP（イラク国内避難民）のがん患者と家族が利用。相談所は、がんの子どもを持つ貧困家庭の家族が相談に訪れています。このハウスには、地域との交流拠点という機能も持たせています。

2017年2月には専門家を派遣して感染症対策の講義を実施しました。

※この事業は外務省の日本 NGO 連携無償資金協力（N 連）より助成を受けています。

JIM-NET ハウス イメージ図



JIM-NET ハウス入口（上）室内には子どもたちの絵が飾られています。左端が鎌田寛代表理事（下）

❖活動内容

▶医薬品支援・消耗品支援

アルビル1か所・バグダッド2か所・バスラ1か所・ドホーク1か所の病院の支援を継続しました。

また、モスル解放作戦に伴い、ドホークの病院とモスルのイブンアシール病院が2017年1月にISから解放されたため、イラク人スタッフが現地を訪問、抗がん剤を支援しました。

▶院内学級

支援する各病院で、小児がんの子どもたち向けの院内学級を実施し、学習支援をするとともに、文化活動やレクリエーションも企画・実施しました。

▶貧困患者支援

イラクの病院は無料で治療が受けられますが、病院に薬がないと患者の家族が自己負担しなければなりません。

貧困患者の薬代や、特殊な治療が必要とされる場合の一部をJIM-NETが負担しています。

▶JIM-NET 会議の開催

2017年3月2、3日、アルビルにて毎年恒例のJIM-NET会議を行い、支援しているイラクの各病院から参加した医師とスタッフが、1年間の成果と以下の課題について話し合いました。

- ・毎年行ってきたALL（急性リンパ性白血病）の治療成績を発表、死亡原因を追究し、改善するための議論
- ・輸血による感染症の現状と改善
- ・CAR-T細胞移植技術をイラクに導入するための議論
- ・心理社会的なアプローチ
- ・紛争下に置かれた病院の支援（モスルとダマスカスの事例）
- ・各病院個別に支援内容の見直し



ISの放火で丸焼けになったイブンアシール病院（2017年1月）



バグダッドで院内学級の新学期（2016年4月）



シリアから定期的にイラクに通う脳腫瘍のハバル君、交通費の支援を受けています（左）。ハバル君の作ったサカベコ（右）。

サナット君（6歳）は、モスルのハバルという村に住んでいたが、2014年にISが自宅に押し入り激しい銃撃戦になってしまい、恐怖におびえた。その時から体調がおかしくなり、モスルのイブンアシール病院にいくと、白血病と診断された。

ISの戦闘員は父親に「戦闘員になれば、薬をただであげる」と言ったが、父親は拒否した。それを聞いた長男は、弟のためにISで働くことを申し出るが、父親は許さず、長男を殴った。結局知り合いがお金を払い、治療を続けることができた。母親は涙を浮かべながら「夫と息子は、その時から仲が悪くなりました」と言う。

10月に村はISから解放されたが、その時、イブンアシール病院はまだISの支配下に置かれていたので、サナット君は病院に通うことができなくなってしまった。サナット君は出血がひどく、救急車でナナカリ病院に連れてこられた。ナナカリ病院にも薬が不足している。「ISの統治下の方がよかった」とならないように、支援を続けるなければならない。



救急車で運ばれてきたサナット君

緊急支援

❖2016年度シリア難民・イラク国内避難民の概況

2015 年は、100 万人を超える大量の移民、難民がヨーロッパに流出、2016 年は、ヨーロッパ社会はその反動が表れました。パリやベルギー、ドイツ、スウェーデンで起きたテロ事件の実行犯にシリア難民やアラブ系移民が含まれると、ヨーロッパ社会の保守化が加速し、難民や移民の差別、排斥が懸念されるようになりました。

6 月には、イギリスが EU から離脱することを決定。また、米大統領選挙ではトランプ氏が当選するなど、全世界が保守化の傾向に。イラク情勢はモスル解放作戦が 4 月ごろから始まり、国連高等難民弁務官事務所（UNHCR）は、本格的な作戦が進めば 150 万人の国内避難民が出ると想定して、国内避難民（IDP）キャンプなどの準備を開始しました。

10 月には、アバディ首相が、「（本格的な）解放作戦を始める」と宣言し、2017 年 1 月には、モスルの西岸（チグリス川）が完全に解放されました。10 月からのオペレーションでモスルから避難し IDP になった人は 225,000 人、イラク全体では、すでに IDP になっていた人たちを加えると約 300 万人が IDP となっています（2017 年 3 月 17 日現在）。

一方 2011 年、「アラブの春」が飛び火したかたちで開始したシリア内戦は、6 年目に入りました。2016 年 12 月、政権側がアレppoを制圧して軍事面で優位に立ち、その後、年末には停戦が発効しました。停戦の発効後、国連の仲介により和平協議が再開しましたが、政権側と反政権側の主張の隔たりは大きく、進展の兆しは見られないままです。

シリア政策調査センター（Syrian Center for Policy Research：SCPR）は、これまでの死者数を 47 万人、さらにシリアの人口の 11.5% が負傷または死亡しており、190 万人以上が負傷していると予測しています。一方、周辺諸国には 2011 年以降 510 万人以上の難民が出ており、ヨルダンには UNHCR に登録されている 66 万人を超える難民が居住しています（難民登録されていない、または登録を待っている人々の数を含めると 150 万人にのぼると言われている）。

国際 NGO「ハンディキャップ・インターナショナル」の調査によれば、難民の 15 人に 1 人が内戦により負傷しており、また、負傷した難民のうち約 55% が日常生活に不自由しており、約 33% が重度の障害者と報告されています。

❖活動内容

▶イラク国内避難民支援

「イスラム国」（IS）との戦いによりライフラインを奪われた人たちに以下の支援を行いました。

①避難民キャンプへの支援

- ・2016 年 7 月、デバガキャンプにパンと医薬品を支援

②「イスラム国」（IS）から解放された地域への支援

- ・シンジャール山へのモバイルクリニックを実施
- ・5 月に解放されたアンバル州ルトバのプライマリーヘルスケアセンターに医薬品を提供
- ・10 月に本格的に始まったモスル解放作戦で解放されたドホーク近郊の 3 村にてモバイルクリニックを実施
- ・ニナワ県のモスル緊急支援用の薬剤倉庫で火災が起きたため、倉庫清掃作業を支援



IS から避難してきたモスルの人たち（2016 年 9 月）

▶シリア難民支援（イラク）

下記の支援を実施しました。

①ダラシャクラン難民キャンプの支援

- ・クリニックで不足する葉酸などの薬剤
- ・特殊な粉ミルクの必要な乳児を支援
- ・妊産婦の検診と出産を支援
- ・手術等が必要な子どもたちの医療費を負担



YDY ブランドの
ゴールドリボン

②妊産婦を中心にワークショップを実施

- ・がんの子どもたちを支援する手工芸品グッズとして、ナナカリ病院の子どもたちへ毛糸の帽子を贈り、日本向けには募金グッズとしてゴールドリボン、シュシュ、眼鏡チェーン等を作成
- ・日本人ジュエリーデザイナーの監修のもとで、新たなブランド「YDY」を創設

※ YDY（イディー）：アラビア語で“私の手”を意味し、紛争により困難を抱える女性を「ものづくり」を通して支援します。



難民の妊産婦の検診 ©Natsuki YASUDA

▶シリア難民支援（ヨルダン）

下記の活動を行いました。

①難民負傷者への医療アクセス支援

サービスの利用者の内訳 70%がシリア内戦による負傷者で、その多くが車椅子、歩行器、松葉杖を使用し、公共サービスでの移動、通院が困難または不可能な人です。

- ・2016年4月～2017年3月までに延べ873人が利用



難民負傷者のための送迎サービス

②リハビリテーション活動支援

下記のリハビリテーションを提供しました。

- ・2017年4～12月、ザアタリ難民キャンプ内のリハビリテーション施設にて、延べ703人に提供（女性、子どものみ）
- ・2017年4～7月、10月中旬～12月、アンマン市内の通院が困難な障害者延べ240人に、在宅リハビリテーションを提供（スタッフ変更に伴い8月～10月中旬まで活動中断）
- ・イルビッドのリハビリテーション施設において、延べ1,711人に提供（在宅リハ含む）



女性障害者へリハビリテーションを提供

③リハビリ従事者の技術向上研修

前年度の研修参加者の活動モニタリング、聞き取り、現地保健省のリハビリ施設のモニタリング、保健省のコンサルテーションの結果にもとづき、研修内容、対象者を設定、下記研修を実施しました。

- ・スキルアップ研修（2回実施：延べ59名参加）
- ・ケーススタディ研修（3回実施：延べ69名参加）
- ・脊髄損傷に関する評価スキル研修（1回実施：延べ19名参加）

④負傷者／障害者の社会参加支援

障害者が中心となって立案、計画された以下の活動を実施しました。

- ・障害者スポーツ活動（12回）
- ・子どもの障害啓発キャンペーン（1回）
- ・障害のある子どもとない子どもが参加するサマーキャンプ（8回）
- ・女性障害者の文化活動（12回）



子どものためのサマーキャンプ



福島支援

▶福島支援

福島で、子どもたちを放射能から守る活動を行っている団体を支援しました。また、福島から学んだ教訓を未来に活かすべく、持続可能なエネルギーへの取り組み、そして、福島を元気にする活動を行いました。

①子どもたちを放射能から守る活動の支援

- ・「NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト」に、ゲルマニウム放射線測定器の液体窒素を支援
- ・「NPO 法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」による尿中セシウム・甲状腺エコーの検査を支援

②保養の支援

- ・「NPO 法人アースウォーカーズ」による高校生のドイツへの保養（東京で報告会を実施）をサポート
- ・「おいでん！福島っ子！運営委員会」による小・中学生の愛知県内での保養をサポート

③福島の人たちと共同で「福島を元気にするプロジェクト」実施

- ・「日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）」が支援し「（社）ふくしまをリハビリで元気にする会」の主催による「あそびのひろば」支援
 - ・いわきオリーブ基金への支援として軽トラック購入費の一部支援
 - ・サカベコの普及。リオデジャネイロオリンピック開催時期にサカベコワークショップを福島県（会津市）と、群馬県（大泉町）で実施。新宿クリエイターズ・フェスタ「子どもアート」にて展示（8月）
- ※サカベコ：福島県会津地方の郷土玩具「赤べこ」にサッカーユニフォームの柄をペイントしたもの。

④原発に頼らない持続可能な地域エネルギーの促進

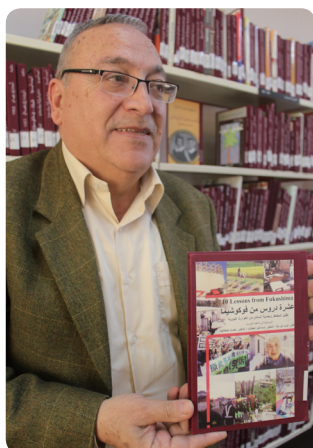
- ・「福島 10 の教訓ブックレット委員会」に加盟
- ・2015 年度に作成したブックレットのアラビア語版を普及するため、ヨルダンでワークショップを実施

第一回目：2016 年 9 月 2 日 ヨルダンの元保健大臣、元教育大臣など有識者が参加

第二回目：2017 年 3 月 23 日 ケンブリッジ高校で高校生に大橋正明氏（聖心女子大学教授）が講義。高校生 200 名が参加。有識者 15 名がトレドホテルにて、今後の取り組みを協議

・9 月 23 日「農民発電で地域再生」講演会を他団体との共催で開催し、二本松有機農業研究会に支援を実施（ソーラーパネル設置）

・二本松有機農業研究会への支援資金の調達として「農民発電」カカオクッキーの販売に協力



楢葉町の現状を視察（2016 年 11 月）



会津美里の仮設住宅で楢葉町から避難しているお年寄りを対象にサカベコワークショップを開催（2016 年 11 月）



サカベコの展示



上：『福島 10 の教訓』ブックレット・ヨルダンワークショップ（2016 年 9 月）

左：『福島 10 の教訓』ブックレットをヨルダンの高校へ寄贈

アドボカシー 広報・イベント・チョコ募金

▶アドボカシー（政策提言）

フィリップ・グランディ国連難民高等弁務官にヨーロッパに避難したイラク難民（ヤジディ教徒）の子どもが描いたポストカードを手渡し、少数民族の難民の保護を訴えました。

福島支援関連では、県民健康調査・甲状腺検査に関して「一般社団法人 子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト」による要望書に賛同しました。

また、以下の各ネットワークに参加して活動を行いました。

①「NGO 非戦ネット」：安保法制の成立・施行に伴い、南スーダン派遣の自衛隊に新任務が付与されたことから、日本国際ボランティアセンター（JVC）からスーダンに派遣されている今井正樹氏の講演会を開催

②「シリア和平ネットワーク」：G7 に際して日本政府がシリア内戦に向け、武力によらない解決のためのリーダーシップをとるよう要請。東京外国語大学、明治学院大学国際平和研究所と共催で、シリア人を招聘してワークショップ、シンポジウム「シリア危機の実効的アプローチに向けて」を開催

③「イラク戦争の検証を求めるネットワーク」：安保法制関連勉強会を開催

▶広報・イベント

・JIM-NET 便りを年間4回発行しました。

【主なイベント】

5月 JIM-NET PEACE READING2016 ～あなたは戦争が始まるのを待っているのですか？

★出演：村山歩、永栄正顕、渡辺直子、タカミナオミ、高谷雅志

6月 難民の日に「シリア・イラク・福島」を考える

★ゲスト：松崎康弘、安田菜津紀、土橋喜人、鎌田實

「戦争の傷跡～白血病と闘うイラクの子どもたち」杉戸町での展示会・講演

11月 「難民＋障害～社会を変える力になる」シリア難民障害者支援報告

★ゲスト：安原美佐子

チョコ募金キックオフ「光を世界へ」

★ゲスト：ウォン・ウィンツァン、湯川れい子、斉藤とも子

筑波学院大学難民映画祭

「聞きたかった戦争・紛争の『リアルな話』」

★ゲスト：イラク帰還米兵、井筒高雄、野川未央

12月 安田菜津紀と佐藤真紀の「新イラク紀行」

2月 イラク・シリアの子どもたちへ バレンタイン展

ギャラリー日比谷にてイラク、シリアの子どもたちの絵画を展示

▶チョコ募金

ヨーロッパに渡ったイラク、シリアの小児がんの少女たちに、花の絵を描いてもらい、なぜヨーロッパに移住しなければならなかったのかを問いかけるチョコを作りました。

①テーマ：「いのちの花 物語のあるチョコレート～ヨーロッパ編」

②募金個数：六花亭の協力で前年度と同じく16万個

③実施期間：2016年12月～2017年2月



フィリップ・グランディ国連難民高等弁務官にヤジディ教徒の難民の苦難を訴える



チョコ募金キックオフ「光を世界へ」トークセッション



筑波学院大学難民映画祭で UNHCR の難民用テントを学生がドレスに仕立てて着用し、ダンスとプロジェクションマッピングのコラボレーションを披露。ドレスは「イラク・シリアの子どもたちへバレンタイン展」にて展示



チョコ募金の缶とカード

2017年度事業計画



海外事業

▶イラク小児がん支援

1) 医薬品支援

①アルビル、バスラ、バグダッド、ドホーク、モスルの病院への医薬品支援を継続する。

②アルビルは運営管理関係を整理し、保健省とも調整して、品質管理を通過した抗がん剤が、病院にきちんと納入されるように改善していく。

③ JIM-NET の支援を地元の政府、市民に知ってもらうように広報に力を入れる。

2) トレーニング

①看護師研修、ソーシャルワーカー研修を実施する。

②アルビルにて提携先の大学を探す。

③スレイマニアのヒワ病院と協力関係を構築する。

④ 11 月を目途にバグダッドの看護師の研修を実施する。

3) 小児がん包括支援施設 (JIM-NET ハウス)

保健省の敷地内に建屋を作り、活動を拡大する。

4) 先端技術

① CAR-T 細胞療法に関して実現可能性調査をヒワ病院と協働で行う。

②劣化ウランと小児がんとの因果関係の研究に関しては、血液サンプル収集で JCF に協力していく。

▶緊急支援

1) シリア難民支援 (イラク)

ダラシャクラン難民キャンプにおける以下の支援を継続する。

①クリニックで不足する葉酸などの薬剤を支援する。

②特殊な粉ミルクを支援する。

③手術等治療が必要な子どもたちの医療費を負担する。

④妊産婦の手工芸ワークショップを実施する。

2) シリア難民支援 (ヨルダン)

以下の支援を継続する。上半期は JIM-NET が資金提供を行い、下半期は提携団体が責任をもつことを目指す。

①難民負傷者への医療アクセスを支援する。

②リハビリテーション活動を支援する。

③障害者の社会参加を支援する。

④ヨルダンのシリア難民に関する調査を行い、報告書を作成する。

国内事業

▶福島支援

活動指針を、①福島の将来は福島の人たちが決める②東京の責任を果たす（無関心ではいけない）③世界に向けた発信をする、として、以下の活動を実施する。

1) 地元の団体の事業支援

「保養」「見える化」「検診」の事業を支援する。事業について必要な場合には地元の団体と共同で実施する。甲状腺がんの患者家族のサポートについて調査する。

2) 福島からの発信に協力

福島から発信される声を政府に届ける力添えを行う。

3) ブックレット『福島 10 の教訓』の普及

アラビア語版を用いたワークショップをアラビア語圏で実施するとともに、原発に関する情報の発信を行う。

▶アドボカシー（政策提言）

1) イラク戦争の検証

イラク戦争の検証を求めるネットワークと協働を続ける。イラク戦争の教訓を生かすべく、発信を続ける。

2) ODA 関連

日本政府の渡航規制に関する問題提起、改善に向けた要望書に賛同する。

3) シリア関連

引き続きシリア和平ネットワークの活動に参加し、シリア紛争終結に向けたアドボカシー活動を展開する。

▶広報・イベント

1) 広報

WEB コンテンツ管理機能を強化し、多様かつわかりやすい情報発信、セキュリティ機能を強化する。

2) イベント

① JIM-NET ハウスの活動を中心に、JIM-NET の活動を伝え、支援につなげていくイベントの企画をたてる。

②グッズの製作、紹介を通して新しいボランティア、支援者の拡大を図る。

▶チョコ募金

1) テーマ

「HAPPY JIM-NET ハウスに集まる人々」とする。

2) 実施時期と個数

前年度と同じく 12 月より 16 万個の寄付を募る。

2016年度決算

※活動計算書

● 2016年4月1日～2017年3月31日

Ⅰ．経常収益 (単位：円)	
科目	決算額
受取会費	13,199,000
	(受取寄付金) 42,320,130
受取寄附金	85,798,005
	(チョコ募金)
合計	128,118,135
	(受取補助金) 25,217,424
受取助成金等	1,000,000
	(受取助成金)
合計	26,217,424
事業収益	0
その他収益	(受取利息) 27,782
経常収益計	167,562,341

Ⅱ．経常費用／Ⅲ．経常外収益 (単位：円)	
科目	決算額
事業費	人件費（給与手当、通勤費他） 20,537,380
	その他経費（プロジェクト費他） 112,230,892
事業費計	132,768,272
管理費	人件費（給与手当、通勤費他） 12,978,747
	その他経費（事務所家賃他） 21,234,269
管理費計	21,234,269
経常費用計	154,002,541
経常外収益計	372,569
当期正味財産増減額	13,932,369

※貸借対照表

● 2017年3月31日現在

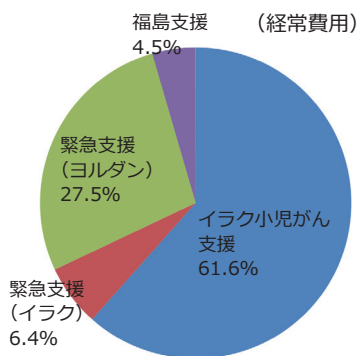
資産の部 (単位：円)	
科目	金額
1. 流動資産	
現金預金	199,841,262
未収入金	179,504
前渡金	422,367
前払費用	199,800
仮払金	133,700
流動資産合計	200,776,633
2. 固定資産	
什器備品	397,607
固定資産合計	397,607
資産合計	201,174,240

負債の部 (単位：円)	
科目	金額
1. 流動負債	
未払金	1,617,746
未払費用	676,037
前受金	16,978,053
預り金	444,326
借受金	2,650
流動負債合計	19,718,812
2. 固定負債	0
負債合計	19,718,812
正味財産の部 (単位：円)	
科目	金額
福島基金	8,520,660
緊急時対応準備金	7,000,000
前期繰越正味財産	152,002,399
当期正味財産増減額	13,932,369
正味財産合計	181,455,428
負債及び正味財産合計	201,174,240

※監査報告書

監査報告書 INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT	
特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）の2016年度決算（2016年4月1日～2017年3月31日）について、監査の結果、事業は適正に実施され、また活動計算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。 We have audited the financial statement of NPO JIM-NET as of March 2017 and acknowledged that revenue and expenditures for the Fiscal Year 2016 in the activity statement and balance sheet were based on generally accepted accounting principles. 日付: 2017年5月26日 監事: 村山文彦	

各支援事業の費用の割合



2017年度予算

※活動予算書

● 2017年4月1日～2018年3月31日

Ⅰ．経常収益 (単位：円)	
科目	予算額
受取会費	10,080,000
	(受取寄付金) 34,300,000
受取寄附金	96,150,000
	(チョコ募金)
合計	130,450,000
	(受取補助金) 66,300,000
受取助成金等	2,200,000
	(受取助成金)
合計	68,500,000
その他収益	合計 2,680,000
経常収益計	211,710,000

Ⅱ．経常費用 (単位：円)	
科目	予算額
事業費	人件費（給与手当、通勤費他） 15,860,000
	プロジェクト物資費 76,560,000
	ワークショップ開催費 1,200,000
	日本 NGO 連携無償資金協力事業費 66,300,000
	その他経費（業務委託費等） 41,020,000
事業費計	200,940,000
管理費	人件費（給与手当、通勤費他） 9,040,000
	その他経費（事務所家賃他） 5,540,000
管理費計	14,580,000
経常費用計	215,520,000
経常収支差額	▲ 3,810,000

※ JIM-NET 参加団体 (50 音順)

【アラブの子どもとなかよくする会】

1991 年の湾岸戦争後からアラブ地域、とくにイラクの子どもたちへの支援活動を開始、1993 年に会を設立。がんの子どもたちへの医療支援のほか、クラフト作り（アフアー・プロジェクト）を通じて患者家族の生活支援を行っています。

【カタログハウス基金】

カタログ雑誌「通販生活」では、信頼できる暮らしの道具を厳選して販売するとともに、戦争や災害に苦しむ子どもたちの救援活動に取り組んでいます。

【子どもの平和と生存のための童話館基金】

童話館グループは、長崎市にある絵本・子どもの本を専門にあつかう会社です。2001 年、童話館の創業 20 周年記念として、「子どもの平和と生存のための童話館基金」が設立されました。

【「サダコ」・虹基金】

原爆の子の像のモデル佐々木禎子さんと同じ病院で過ごした故・大倉記代さんが、絵本『思い出のサダコ』出版をきっかけに 2006 年 3 月に設立した基金です。

【スマイルこどもクリニック】

小児救急施設の不足が深刻な社会問題となる中、2001 年に開院された 24 時間診療の小児クリニックです。イラク難民キャンプでの健康診断、子どもたちの手術費の負担など様々な支援を行ってきました。

【日本国際ボランティアセンター (JVC)】

1980 年、カンボジアやラオス、ベトナムでたくさんの難民が生まれた時、タイの難民キャンプに駆けつけた日本の若者たちにより誕生しました。現在、アジア、アフリカ、中東、そして日本の震災被災地で活動しています。

【日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF)】

1991 年 1 月、チェルノブイリ原子力発電所事故被災者への医療支援を目的として設立された認定 NPO 法人です。2004 年からはイラクの小児白血病・小児がんの子どもたちへの支援を行なっています。



2016 年度年次報告書

2017 年 7 月 28 日発行

特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-11 内藤ビル 2C

電話：03-6228-0746 E-mail：info-jim@jim-net.net

寄付金振込先：郵便振替口座 00540 - 2 - 94945 加入者名 日本イラク医療ネット

ゆうちょ銀行 金融機関コード 9900 店番 059

預金種目 当座 店名 ○五九店 (○は漢数字のゼロ) 口座番号 0094945

<http://jim-net.org/>

【表紙の絵】

描いてくれたのは、バスラのスース・アブドルザハラさん（19 歳）。JIM-NET の支援で抗がん剤の治療が終わり、現在は元気に暮らしています。2018 チョコ募金の缶の柄には、アブドルザハラさんの絵を起用し、製作が進められています。

